

# 雄国湿原利用調査

## 【目的】

雄国沼湿原における木道の保全状況他の調査を実施したのでここに報告する。

## 【概要】

1. 実施日 7月20日 曇り 7月24日 曇り時々晴れ 9月28日 晴れ
2. 調査者 立花千秋

## 【調査結果】

- ・ 7月20日： 木道は適切に保全されていた。また、湿原には多くのニッコウキスゲが残っていた。
- ・ 木道の問題ではないが雄国休憩舎のトイレの汚れがひどく、利用者からのクレーム続出であった。
- ・ 7月24日： 木道の保全状態は非常によく歩きやすく、利用者からも好評であった
- ・ 湿原のニッコウキスゲは、数株が残っているのみであった。しかし、初秋を彩る花々が咲き始めていた。
- ・ 9月28日： 草紅葉のこの時期の来訪者も多くなってきている。熊の目撃の多い猫魔一雄国沼で最近の熊の糞を見つける。

## 【考察】

- ・ 雄国沼湿原に訪れる観光客は年々増加しているが、マイカー規制も定着し萩平駐車場からのシャトルバス利用も周知されている。
- ・ 今回はニッコウキスゲの最盛期を過ぎていたため幾分利用者は少なかったが、最盛期にはこの状態でも木道は満杯であったことが推測される。
- ・ 雄国沼休憩舎のトイレ入口にて、「トイレ利用協力金」の募金箱が設置されている。多くの利用者が、山中での排泄を我慢することなくトイレで行えること、排せつ物の処理をしていただけることに感謝しつつ、1コイン(100円)程度の協力金を支払っている。学校団体の登山トレッキングの場合は1クラスあたり1000円の協力金を支払うよう学校側に働きかけている(実際に支払っている)ガイド団体もある。(一般的に、登山における山中施設でのトイレチップ制度の認知度と意識は高い。)
- ・ 協力金を支払っているにもかかわらず、トイレを利用できないほどの清掃状況となって

いるのが現状である。特に、年間で最も利用者が多くなるニッコウキスゲ開花期の清掃状況は筆舌に尽くしがたいほどひどいものである。事例を挙げると、2014年同時期の女性トイレの状況だが、6室あるうち5室はドアが封鎖され、唯一ドアが開けてあった1室も、糞尿と使用済みペーパーが便器から溢れるほどだった。トイレに入る前に募金箱があるため並ぶ時にすでにチップを入れたご婦人が利用しようとしたが「こんなひどい状況ならトイレチップ入れたくなかったわ」とこぼされた。その場にいた多くの方も同意見だっただろう。さらに、臭いもひどいもので、休憩舎内に蔓延しゆっくり休憩できるはずもなかった。17日に置いても同じ状況を目の当たりにした当協会理事が、週末に向けて早急に善処するよう北塩原村役場商工観光課へ連絡したが、実行されなかった。こうした現状は、嘆かわしいばかりか、協力金を集めている運営組織、自治体に対して不信感を募らせるものであり、その意義を疑うのは避けられない事態である。

- ・ トイレ環境の良し悪しは、観光業への影響（ひいては地域全体の評価）を大きく左右する事柄であることは明白だ。雄国沼および雄国沼湿原は、喜多方市・北塩原村においても、目玉としている観光地である。震災復興のため観光客誘致につなげるため、雄国沼および湿原を積極的にPRしている観光宿泊業者からも、そのトイレ問題は大きな悩みである。オーバーユースによる環境破壊の懸念からシャトルバス運行、休憩舎およびチップ制トイレを整備したことは、エコロジーな取組みとしてひろく社会に知られ評価された。しかしながら現在に至っては、最も利用者の多い時期にトイレ清掃が全く行き届いておらず、その状況は年々ひどくなる一方である。このままでは、トイレ以外での排泄行為が罷り通る、いわば環境悪化を招くのではないかと懸念される。